

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護学概論	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員					
<p>《科目目標》</p> <p>看護を学ぶにあたっての基礎となる看護の理念、看護の対象としての人間、看護の主要概念、歴史的な変遷を理解し、看護の全体像を把握する。あわせて初期の段階での自分なりの考えを整理する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験・レポート</p>					
<p>《使用教材（教科書）及び参考図書》</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 メディカ出版          看護の基本となるものーヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会          看護覚え書ー看護であること 看護でないことーフローレンス・ナイチンゲール 現代社</p>					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護への導入 看護者の役割と必要とされる能力			講義
2	2	看護の対象である人間理解			講義・演習
3	2	健康の理解、環境と人間及び健康との関連			講義・演習
4	2	看護実践のための枠組み① ナイチンゲール看護論の理解			講義・演習
5	2	映像から見える看護実践①			講義
6	2	映像から見える看護実践②			講義・演習
7	2	看護実践のための枠組み② ヘンダーソン看護論の理解			講義・演習
8	2	看護実践のための枠組み③ //			講義・演習
9	2	看護実践のための枠組み④ 主な理論家の業績と看護概念			講義・演習
10	2	看護の法的基盤と教育制度			講義
11	2	看護の質の保証① 看護ケアの原則			講義・演習
12	2	看護の質の保証② 看護における倫理			講義・演習
13	2	看護の質の保証③ 看護をめぐる医療事故			講義・演習
14	2	看護の質の保証④ 根拠に基づいた看護			講義
15	2	看護の歴史的変遷と変化 これから求められる看護			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 人間関係を成立・発展させるために必要な基礎的コミュニケーション技術を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験・レポート					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 I メディカ出版 仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版 看護コミュニケーション基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> コミュニケーションに関する文献を集め、コミュニケーションについて学びを深めていく。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	コミュニケーションの概念			講義・演習
2	2	看護学でコミュニケーションを学ぶ意義			講義・演習
3	2	コミュニケーションの基本原理・構造とプロセス・種類とその概要			講義・演習
4	2	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション			講義・演習
5	2				
6	2	看護の場面で効果的なコミュニケーション技術 1) 社会的コミュニケーション・専門的コミュニケーション 2) コミュニケーションに必要な能力と態度・影響するもの 3) 医療・看護におけるコミュニケーション 4) 良好なコミュニケーションに必要な技法 5) 積極的傾聴と共感 プロセスレコードについて			講義・演習
7	2				
8	2				
9	2				
10	2				
11	2	実習で遭遇するコミュニケーション困難な状況への対応			演習
12	2	・コミュニケーション障害・実習でみかける困難な状況			
13	2	プロセスレコードを書いてみよう ～基礎看護学実習 I の場面から～			講義・演習
14	2	実習でのプロセスレコードにて自己を振り返る			演習
15	2	アサーティブネスについて			演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
複数の臨床で経験してきたフィジカルアセスメントの技術とその根拠について、その経験を活かした実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> フィジカルアセスメントの目的・意義を理解する。対象の身体状況をアセスメントするために必要なバイタルサインの測定技術を身につけ、対象者から得た身体の情報から基礎的な正常異常の判断ができるよう学習を深める。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験、技術テスト					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> 自己学習、技術練習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	フィジカルアセスメントとは バイタルサインとは			講義
2	2	体温について 体温調節の技術			講義
3	2	呼吸に関するフィジカルアセスメント			講義
4	2				
5	2	フィジカルアセスメントの技術① 体温測定 呼吸に関するフィジカルイグザミネーション			演習
6	2	血液循環に関するフィジカルイグザミネーション（脈拍）			講義
7	2	血液循環に関するフィジカルイグザミネーション（血圧）			講義
8	2	血液循環に関するフィジカルイグザミネーション（その他）			講義
9	2	フィジカルアセスメントの技術② 脈拍測定 血圧測定			演習
10	2				
11	2	排泄と体液に関するフィジカルアセスメント			講義
12	2	フィジカルアセスメントの技術③ 腹部の聴診・触診・打診 下肢の浮腫の観察			演習
13	2	症状に合わせたフィジカルアセスメントの活用			講義
14	2	バイタルサイン測定とアセスメント			講義・演習
15	2	バイタルサイン測定の実験 まとめ			技術試験 講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (安全)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (14/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 医療機関において看護師として実務経験のある教員が教授する					
≪科目目標≫ 看護における感染・安全についての意義を理解し、原理・原則に沿った感染予防の援助技術を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
≪授業外における学習方法≫ 課題学習を行う					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	感染予防の意義 感染を成立させる要素と成立過程			講義
2	2	感染予防のための援助方法			講義
3	2	感染予防のための援助技術			講義 演習
4	2	感染性廃棄物の取り扱い 感染症発症時の対応			講義
5	2	感染予防のための援助技術の実際			演習
6	2	洗淨・消毒・滅菌の基礎知識			講義 演習
7	2	無菌操作・滅菌物の取り扱い			

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅲ (環境)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (16/30)	開講時期	1 年前期
担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 人間にとっての環境の意味を理解し、対象が安全・安楽に闘病意欲を高め自立に向けた環境を整える援助技術を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院					
≪授業外における学習方法≫					
≪履修に当たっての留意点≫					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	環境の意義 環境を整える技術			講義
2	2	ベッドメイキングの基礎知識			講義・演習
3	2	2人で行うベッドメイキング			
4	2	病床環境と病床の整備 病床環境の調整援助のアセスメントの視点 事例による病床環境の情報収集とアセスメント			講義
5	2	臥床患者のシーツ交換			演習
6	2	事例による病床環境の情報収集とアセスメントを活かした			講義・演習
7	2	病床環境調整			
8	2	ベッドメイキング技術試験 まとめ			技術試験 講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術IV(活・休)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (10/30)	開講時期	1 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>人間にとっての活動及び休息・睡眠の意義とそのメカニズムについて理解し、基礎的な活動・休息・睡眠の援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版          看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          学生のためのヒヤリハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	休息と睡眠の意義・生理学的メカニズム 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 休息・睡眠を促す援助の実際			講義
2	2	活動・運動の意義・生理学的メカニズム 活動・運動のニーズのアセスメント			講義
3	2	安楽な体位 ボディメカニクス 活動・運動を支援する援助			講義
4	2	安楽な体位の調整 体位変換			演習
5	2	車いす・ストレッチャーでの移動・移送・歩行			演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅳ(清潔)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (20/30)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし講義・演習を行っている。					
≪科目目標≫ 人間にとっての清潔・衣生活の意義や清潔に関する生理学的メカニズムを理解し、基礎的な清潔の援助技術を身につける。					
≪成績評価の方法≫ 筆記試験、技術試験					
≪使用教材(教科書)及び参考図書≫ ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
≪授業外における学習方法≫ 実習室を有効に活用し、看護技術の反復練習を行い技術習得する					
≪履修に当たっての留意点≫ 特に演習については、教科書や視覚教材を使い事前学習して参加する					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 清潔行為とその影響 清潔のセルフケアに影響を与える要因			講義・演習
2	2	清潔の援助方法 寝衣交換			演習
3	2	清潔の援助方法 入浴・シャワー浴、全身清拭			講義・演習
4	2	清潔の援助方法 臥床患者の全身清拭			演習
5	2				
6	2	清潔の援助方法 手浴・足浴			講義・演習
7	2				
8	2	清潔の援助方法 洗髪			講義・演習
9	2				
10	2	技術試験 「臥床患者の全身清拭」			技術試験

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅴ(食・排)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30/30)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 1. 人間にとっての食事の意義や食事・栄養のメカニズムについて理解し、基礎的な食事の援助技術を身につける。 2. 人間にとっての排泄の意義や排泄のメカニズムについて理解し、基礎的な排泄の援助技術を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA とにかく使える検査値の見かた 第2版 照林社					
<b>《授業外における学習方法》</b>					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	食事・栄養の意義：食事に関する生理学的メカニズム			講義
2	2	食事・栄養に関する基礎知識 栄養状態のアセスメント			講義
3	2	食事・栄養に関する援助			講義
4	2	口腔ケア			講義
5	2	食事介助・口腔ケア			演習
6	2	非経口摂取の援助(経管栄養法・中心静脈栄養)			講義
7	2	排尿・排便の意義 排尿・排便の生理学的メカニズム			講義
8	2	排尿・排便の援助：床上での排尿・排便の援助			講義・演習
9	2	おむつを用いた援助			講義・演習
10	2	おむつ交換・陰部洗浄			
11	2	排尿・排便障害の種類①：排便行動、自然排便を阻害する因子			講義
12	2	排便障害時の援助①：温罨法・腹部マッサージ			演習
13	2	排便障害時の援助②：グリセリン浣腸			講義・演習
14	2	排尿・排便障害の種類②：排尿行動、自然排便を阻害する因子			講義
15	2	排尿障害時の援助：一時的導尿			講義・演習



令和6年度 授業計画（シラバス）

科目名	基礎看護技術VI	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	2 年前期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に検査・治療・処置が受けられる基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配慮した援助技術を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 筆記試験					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 II メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院					
<b>《授業外における学習方法》</b> 教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける。 講義に関連する「人体の構造と機能」の講義内容を振り返り理解する。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 演習では、医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	治療・処置時の患者の理解と看護者の役割			講義
2	2	呼吸を楽にする援助 呼吸の生理学的メカニズム 1) 呼吸法 2) 痰を喀出させる方法（体位ドレナージ）			講義
3	2	3) 吸引 一時的吸引（口腔・鼻腔）の基礎知識 持続吸引の基礎知識			講義
4	2	4) シミュレータを使用した一時的吸引			演習
5	2				
6	2	5) 吸入（ネブライザー）療法			演習
7	2	6) 酸素療法 酸素の取り扱い（中央配管・酸素ボンベ）			講義
8	2				
9	2	皮膚・創傷を管理するための基礎知識 1) 創傷の分類と治癒過程 創傷の管理			講義
10	2	2) 包帯法・三角巾			講義・演習
11	2	検査の意義 検査を受ける看護師の役割 検査の種類と実施時の注意点			講義
12	2	検査の援助 身体計測 尿・便・喀痰検査 腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸水穿刺・腹水穿刺			講義
13	2	血液検査 静脈血採血			講義
14	2	シミュレーターを使用した静脈血採血（真空採血管による採血）			演習
15	2				

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ (注射)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (20/30)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float: right;">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・輸血・中心静脈挿入介助が行える基礎的な援助技術を身につける。治療・処置を受ける患者の気持ちに配慮した援助技術を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版          看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA          学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける。          講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>演習では、針などの医療物品を取り扱います。演習が安全で効果的な学習となるよう主体的な姿勢で臨み、また、演習時は身だしなみを整え忘れ物がないようにする。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	注射のための援助技術 ・注射法で使用する物品 注射の準備			講義
2	4	注射の実際① 皮内注射・皮下注射・筋肉内注射			講義・演習
3		目的・適応・必要物品・注射部位・方法・アンプルカット			
4	4	シミュレータを使用した皮下注射			演習
5					
6	4	注射の実際② 静脈内注射 点滴静脈内注射			演習
7		目的・適応・必要物品・注射部位・方法			
8	4	シミュレータを使用した点滴静脈内注射			講義
9					
10	2	持続点滴を挿入している患者の観察・寝衣交換			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護技術Ⅶ (与・輸)	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
対象学年	2 学年	単位 (時間)	1 (10/30)	開講時期	2 年後期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>診療の補助技術に必要な生理学的メカニズムを理解し、安全・安楽に薬物療法・輸血・中心静脈挿入介助を行うための基礎的な知識を理解する。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>筆記試験</p>					
<p>《使用教材 (教科書) 及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版          看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol. 2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA          学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書に掲載してある AR 動画・DVD などを視聴し、イメージをつける。          講義に関連する「人体の構造と機能」「基礎看護技術」の講義内容を振り返り理解する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	与薬のための基礎知識・法的根拠 与薬における安全管理			講義
2	2	与薬のための援助技術 安全で確実な与薬のための知識・技術・態度			講義
3	2	経口的与薬法・その他の与薬法			講義
4	2	輸血 基礎知識 援助の実際			講義
5	2	中心静脈カテーテル留置の介助 基礎知識 援助の実際			講義

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程 I	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (30)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/>					
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<b>《科目目標》</b> 効果的な看護活動をするため、看護倫理・看護の役割を基に問題解決技法である看護過程を展開する方法を学ぶ。また、看護過程を展開するための基礎的な知識として、アセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のそれぞれの方法と一連の流れを理解する。事例患者の看護過程を展開し、アセスメントから計画立案・記録の方法について学ぶ。					
<b>《成績評価の方法》</b> レポートおよび課題にて評価					
<b>《使用教材(教科書)及び参考図書》</b> ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術 I メディカ出版 看護がみえる Vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b>					
<b>《履修に当たっての留意点》</b>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	看護過程とは			講義・演習
2	2	看護過程の各段階 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化			講義・演習
3	2	3) 看護計画 4) 実施 5) 評価			
4	2	看護過程展開に必要な能力 問題解決能力・クリティカルシンキング・リフレクション			
5	2	事例患者の看護過程展開			講義・演習
6	2	1) アセスメント			
7	2	2) 看護問題の明確化			
8	2	3) 看護計画			
9	2	4) 実施			
10	2	5) 評価			
11	2				
12	2				
13	2				
14	2				
15	2	倫理的配慮と価値判断、看護における記録・報告			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	看護過程Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	2 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	2 年前期
<p>担当教員： 専任教員 <span style="float:right">実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/></span></p> <p>看護師としての実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を想定し、講義を行っている。</p>					
<p>《科目目標》</p> <p>看護過程Ⅰでは、看護過程の一連の流れと方法について学習した。看護過程Ⅱでは、看護過程Ⅰの学習をもとに、疾患や治療が人間の生活に及ぼす影響を考えながら事例患者の看護過程を展開する。ゴードンの機能的健康パターンを用いて、アセスメントから看護問題の明確化を行い、看護計画立案・実施・評価の一連の思考過程を学習し看護過程の理解を深める。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>課題の評価表(ループリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版          ナーシング・グラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論 メディカ出版          看護がみえる Vol. 4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習(看護過程Ⅰ・疾病と治療・薬理学など)の授業資料を活用し課題に取り組むこと</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>事前学習(課題)に取り組む、授業に参加すること</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	事例患者の看護過程展開 疾患・治療が患者の生活に及ぼす影響			講義・演習
2	2	1) アセスメント			講義・演習
3	2	2) 看護問題の明確化			講義・演習
4	1	2) 看護問題の明確化			講義・演習
5	2	3) 看護計画			講義・演習
6	2	4) 実施			講義・演習
7	2	5) 評価			講義・演習
8	2	まとめ			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎演習	科目区分	専門分野	授業の方法	講義・演習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (15)	開講時期	1 年後期
担当教員： 専任教員		実務経験のある教員による授業 <input checked="" type="checkbox"/>			
看護師として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義・演習を行っている。					
<p>《科目目標》</p> <p>事例を用いたシミュレーション演習を実践し、患者の観察から必要な情報に「気づく」ことができ、その意味を理解し看護に活かすことができる。この過程を通して臨床判断能力の基礎を身につける。</p>					
<p>《成績評価の方法》</p> <p>評価表(ルーブリック)に基づき評価する。</p>					
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>ナーシング・グラフィカ：基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版          ナーシング・グラフィカ：基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版          看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA          看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA</p>					
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>既習内容を理解し、また、必要な学習内容を主体的に考え学習する。          提示された事前課題を学習する。</p>					
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>各講義学習に該当する学習内容の教科書や授業資料を準備し臨む。</p>					
回数	時間数	内 容			教授方法
1	2	臨床判断とは 1) 臨床判断モデル(気づき、解釈、反応、省察)			講義
2	2	臨床判断の実際① 1) 事例を用いたシミュレーション演習(日常生活援助)			講義・演習
3	2				
4	2	臨床判断の実際② 2) 事例を用いたシミュレーション演習(フィジカルアセスメント)			講義・演習
5	2				
6	2	ト)			講義・演習
7	2				
8	1	まとめ			講義・演習

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習 I	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	1 (45)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> <p>看護師としての実務経験と看護教員としての経験を活かし、看護職の役割と機能について教授している。</p>					
<b>《科目目標》</b> 実習目的：講義で学んだ看護の機能や基礎看護技術の知識・技術やその考え方を基に、病院における看護師の役割を理解する。また患者の療養生活環境を知り、患者とのコミュニケーションや援助を通して、看護師として大切にしたいことを考える。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 看護がみえる Vol. 1 基礎看護技術 MEDIC MEDIA					
<b>《授業外における学習方法》</b> 事前学習、課題学習					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・演習をしっかりと受講し、事前準備を万全にして臨んでください。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	1 学年 9 月～10 月				
<b>時間数</b>	合計 45 時間				
<b>実習内容</b>	1. 病院における看護師の役割を理解する 2. コミュニケーション技術を意識して、患者と関わることができる 3. 患者の状態に合わせた援助がどのように実施されているかを学び、患者の思いに沿いながら援助を考えることができる 4. 看護について考えたことをまとめる 5. 看護者として望ましい態度とは何かを考え、行動する				

令和6年度 授業計画 (シラバス)

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
対象学年	1 学年	単位(時間)	2 (90)	開講時期	1 年後期
<b>担当教員：</b> 専任教員 <b>実務経験のある教員による授業</b> <input checked="" type="checkbox"/> 看護師として看護業務に携わった教員が教授している。					
<b>《科目目標》</b> 基礎看護学の講義で学んだ知識・技術・態度を活かし、マージョリー・ゴードンの機能的健康パターンの考えに基づき、患者の全体像を捉える。入院という特殊な生活環境下の患者にとって、必要な日常生活援助を提供する。実施した援助の中で得た気づきや患者に与える影響を振り返ることで、「よりよい看護」を目指す。臨地実習を通じた学びから、患者の個別性や自己の看護を考える機会とする。さらに、信頼される専門職として、主体的に学ぶ姿勢や望ましい態度を身につける。					
<b>《成績評価の方法》</b> 実習評価表に基づき評価する。					
<b>《使用教材（教科書）及び参考図書》</b> 人体の構造と機能・疾病と治療・薬理学・基礎看護技術などの講義で使用した教科書 参考書・資料					
<b>《授業外における学習方法》</b> 実習に関連する講義の内容を振り返り、理解する。 基礎看護技術の講義で既習している看護技術は、積極的に練習する。					
<b>《履修に当たっての留意点》</b> 実習オリエンテーションの内容について理解し、主体的に実習に臨む。 臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につけられる機会となるため、実習に参加できるよう健康管理に留意し臨む。					
<b>実習プログラム</b>					
<b>実習期間</b>	1 学年 1 月				
<b>時間数</b>	合計 90 時間				
<b>実習内容</b>	1. 患者を身体的・精神的・社会的な側面から捉え、健康上の問題を導き出す。 2. 患者の状態に応じた看護計画を立案できる。 3. 患者の健康状態を観察し、患者に必要な援助を実施する。 4. 看護実践の成果を評価し、看護計画の修正ができる。 5. 看護の考えや気づきを述べる。 6. 看護学生として、信頼されるよう望ましい姿勢で行動する。				